

成分の数と濃度について

一般的に、化粧品に入っている成分の数が多ければ多いほど、肌に刺激となり良くないと思われている方が多いですが、必ずしもそうではありません。含有・配合成分が、化学薬剤か自然な成分(植物エキス)かによって変わります。

化学薬剤は肌にとって異物となるため、配合成分の数が多い商品ほど肌への負担が増します。一方、自然な成分からできた商品の場合、濃度や種類を間違わなければ、基本的に含有成分数が多くても問題ありません(アレルギーを除く)。

●ポイントは濃度

自然由来の成分だから安全であるというのは認識不足です。成分濃度が濃ければ、いくら自然な成分であっても肌にとって負荷(自然治癒力の低下)となります。低濃度であることはとても重要です。

また、自然な成分が入っていても、化学薬剤が入っていれば、肌にとって負荷(自然治癒力の低下)となります。自然な成分のみでできていることと無加工であることも重要です。

低濃度・自然な成分のみでできている・無加工・種類を間違わないという条件を満たした商品の場合、成分の数が多くても肌にとって負荷になる心配はありません。

●海の森の化粧品

海の森化粧品に含まれる成分は、厳選した自然の原料をそのまま使用(無加工)、且つ低濃度のため肌への刺激は皆無となっています[※]。化学薬剤ではありませんので、口や目に入っても支障ありません。海の森の化粧品の場合、含有成分の数が多くても肌にとって負荷になる心配はありません。

※アレルギーを除く。また、バリア機能が著しく低下している場合は稀に刺激になる場合があります。その場合、肌の自然治癒力が機能し、正常なバリア機能が形成されるにつれ症状はおさまっていきます。

●濃度と効能の関係

一般的に配合成分の濃度が濃いほど効果があると捉えている方が多く、濃いものを求める方が多く見られます。ケミカルコスメのように、「美の演出」を目的とした商品の場合は、濃度が濃いほど使用感や香りも良くなり、肌の仕上がり感にも違いが現れます。しかし、肌の自然治癒力をいかに(健康な素肌を維持する)目的であれば、濃いほど負荷となります。全て自然な成分であっても負荷となります。

自然界には、少なければ少ないほど効果を発揮するという微量の法則があります。自然な成分を用いる場合は、濃度が薄いほど効果を発揮することが多く、乾燥を始め様々な皮膚トラブルを軽減し、素肌の健康維持を目的として基礎化粧品を使用する場合は、自然な成分且つ微量(濃度が薄い)であることがポイントとなります。